

# 麻酔科専攻医研修カリキュラム

## 1 概要

当院は救命救急センターおよび総合周産期母子医療センターを併設し、急性期病院の麻酔科医に求められる緊急手術、心臓血管麻酔、小児麻酔、産科麻酔など幅広く研修することができる。また ICU やペインクリニックでの研修も行うことができる。

### 1) 研修コース

#### ・ A コース

麻酔科標榜医および麻酔科専門医を目指すための標準コース

麻酔科標榜医取得後は、救急、集中治療、ペインクリニックの専門医を目指すことも可能である

#### ・ B コース

麻酔科標榜医および麻酔科認定医を目指すためのコース

#### ・ C コース

3～6ヶ月の短期研修コース

### 2) 指導スタッフ

#### ・ 指導責任者 副院長 高石 和

(麻酔科指導医・専門医、救急科専門医、ペインクリニック認定医)

#### ・ 指導医 (平成 26 年 1 月 1 日現在)

常勤医 11 名中 6 名が麻酔科指導医、3 名が麻酔科専門医の資格を有している。

### 3) 麻酔科関連学会の施設認定

日本麻酔科学会 (麻酔科認定病院)

日本集中治療医学会 (集中治療専門医研修施設)

日本救急医学会 (救急科専門医指定施設)

日本ペインクリニック学会 (指定研修施設)

## 2 研修目標

1) A コース (麻酔科標榜および麻酔科専門医を目指すための 4 年間の研修コース : 日本麻酔科学会の麻酔科専門医研修プログラムに準じる)

- ・ 厚生労働省が認定する麻酔科標榜許可および日本麻酔科学会が認定する麻酔科認定医の資格を取得する。
- ・ 日本麻酔科学会が認定する麻酔科専門医の資格取得に必要な知識・技能を修得する。
- ・ 希望により以下の麻酔科関連資格いずれかの取得に必要な知識・技能を修得する。
  - ①日本集中治療医学会が認定する集中治療専門医
  - ②日本ペインクリニック学会が認定するペインクリニック認定医
  - ③日本救急医学会が認定する救急認定医および救急科専門医

2) B コース (麻酔科標榜および麻酔科認定医を目指すための 2 年間の研修コース)

厚生労働省が認定する麻酔科標榜許可および日本麻酔科学会が認定する麻酔科認定医の資格を取得する。

### 3) C コース (3~6 ヶ月の短期研修コース)

初期研修で十分研修できなかった項目を補完し、基本的な全身管理に必要な知識・技能を修得する。

## 3 研修内容

- 1) 初期研修で十分研修できなかったプライマリケアや二次救命処置に必要な技能を修得する。
- 2) 当院の麻酔科臨床研修ガイドラインに基づき、手術部での麻酔管理、ICU および救命救急センターでの患者管理を行い、基本的な呼吸管理（気道確保、人工呼吸など）、循環管理（モニタリング、輸液、循環作動薬の使用など）、疼痛管理を修得する。
- 3) 日本麻酔科学会の麻酔科専門医研修プログラムに基づき、麻酔科専門医に必要な知識、基本手技を修得し必要な症例を経験する。

## 4 研修方法

各専攻医は、常に指導医の指揮・監督の下で研修を行う。手術部・ICU、救命救急センター、麻酔科外来・病棟にはそれぞれ担当指導医がいるのでその指導に従う。

### 1) 1年次

最初の1ヶ月は指導医と常に一緒に業務を行いながら研修を受ける。麻酔管理、術前・術後診察をはじめ、当直やICU患者管理なども指導医と一緒に経験する。

その後は指導医の指導の下で、手術時の麻酔管理を中心とした研修を行う。

はじめの3ヶ月間で約50症例の麻酔管理を経験し、麻酔計画、実施、指導医によるフィードバックを積み重ねることにより、より実践的な基本的臨床能力を養成する。

6ヶ月までは指導医とともに当直を行う、以後は麻酔科オンコールを行い指導医とともに緊急手術の麻酔管理を修得する。

### 2) 2年次

手術での麻酔管理、とくに重篤な合併疾患を持つ患者や侵襲の大きな手術（心臓血管、食道、開頭など）の麻酔管理、小児や産科など特殊な麻酔管理について研修する。

ERやICUでの研修、緩和ケアを含むペインクリニックでの研修も同時に行う。

### 3) 3年次以降

麻酔科標榜許可取得後から、月4回程度のスタッフ当直を行う。希望する分野（救急、集中治療、ペインクリニック、小児麻酔、心臓血管麻酔、産科麻酔など）を中心とした研修を行う。

## 5 評価項目

次の各項目について、a=目標に到達している、b=目標に近い、c=不十分である、の3段階で自己評価および指導医評価を行う。

また、Aコース（麻酔科標榜および麻酔科専門医を目指すための4年間の研修コース）においては、日本麻酔科学会の麻酔科専門医研修プログラムに準じて、それぞれの専攻医に対し年次毎の指導を行い、その結果を、到達目標評価表を用いて到達目標の達成度を評価する。

	自己評価			指導医評価		
	a	b	c	a	b	c
1) 専攻医一年次						
・手術前の患者と適切な患者医師関係を構築でき、必要な情報を集めて Patient Note を作成できる						
・基本的な麻酔手技を理解し適切に行える						
・動・静脈カテーテルの挿入						
・気管挿管						
・中心静脈穿刺						
・硬膜外麻酔						
・脊髄くも膜下麻酔						
・麻酔中の全身管理が適切に行える						
・麻酔薬について理解し適切に使用できる						
・人工呼吸について理解し適切に行える						
・輸液管理について理解し適切に行える						
・循環作動薬について理解し適切に使用できる						
・術後疼痛の管理が適切に行える						
・低リスク患者の低侵襲手術については自カで術前評価を行い、麻酔計画を立て、周術期管理が行える						
・心肺蘇生法 (BLS、ICLS) が行える						
・カンファレンスで症例プレゼンテーションが適切に行える						
・地方会での学会発表が行える						
2) 専攻医 2 年次以上						
・重篤な術前合併症について評価し適切に対処できる						
・侵襲の大きな手術の麻酔管理が適切に行える						
・重症患者の全身管理が適切に行える						
・緩和医療について理解できる						
・ACLS が行える						
・初期研修医の指導が行える						